



せんげん^{だい}台「世一緒^{よいしょ}」の窓^{まど}

春の始まりは野の中に

高瀬勇

またまた畑レポートになった（締め切り^{しめきり}が迫^{せま}っているので、直近^{ちよつきん}の出来事にした）。

2カ月ぶりの畑仕事である。3月1日（金）9：30に越谷駅前バス停留所で利用者二人と待合わせ、吉川駅行きに乗り込み、途中下車して畑に向かう。畑に着くとブヨが空一面カスミのように飛んでいた。雨上がりだったため、草にたま^{あさつゆ}った朝露を吸いに来たのだ。雲雀^{ひばり}の初音^{はつね}を聴く。まだ陽は射していない。薄曇りだ。もっともっとニンニクが育つようにと鶏糞^{けいふん}を

撒^まいて石灰^{かいがら}（貝殻^{つづ}を潰したもの）を撒いた。その後、虫除けに酢酸^{さくさん}を薄めた液をポンプ式のタンクをかついで噴霧^{ふんむ}した。昼過ぎに日が射してくると、ブヨはいなくなり、オオイヌノフグリが咲き乱れた（陽が射さない^{しほ}と萎んだままだ）。別名「野の星^{かれん}」と言ってブルーの可憐な花である。

実に実に麗^{うら}らかで長閑^{のどか}な一日を満喫^{まんきつ}した。最後にごほうびに「菜花^{なばな}（白菜の花芽）」を摘^つんで帰った。